【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第１区分
【発行日】令和2年6月25日(2020.6.25)

【公開番号】特開2019-7756(P2019-7756A)
【公開日】平成31年1月17日(2019.1.17)
【年通号数】公開・登録公報2019-002
【出願番号】特願2017-121232(P2017-121232)
【国際特許分類】
Ｇ０１Ｑ　60/18　(2010.01)
Ｇ０１Ｎ　21/65　(2006.01)
Ｇ０１Ｎ　21/17　(2006.01)
Ｇ０１Ｑ　60/22　(2010.01)
Ｂ８２Ｙ　30/00　(2011.01)
Ｂ８２Ｙ　40/00　(2011.01)
Ｂ８２Ｙ　15/00　(2011.01)
Ｃ０１Ｂ　32/158　(2017.01)
【ＦＩ】
Ｇ０１Ｑ　60/18
Ｇ０１Ｎ　21/65
Ｇ０１Ｎ　21/17　Ｎ
Ｇ１２Ｂ　1/00　６０１Ｃ
Ｂ８２Ｙ　30/00
Ｂ８２Ｙ　40/00
Ｂ８２Ｙ　15/00
Ｃ０１Ｂ　32/158

【手続補正書】
【提出日】令和2年5月11日(2020.5.11)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
試料の上を相対的に走査するカンチレバーと、
励起光照射系と、
近接場光生成系と、
前記カンチレバーと前記試料との間に発生した、前記試料からのレイリー散乱およびラマン散乱光を検出する散乱光検出系と、
を備え、
前記カンチレバーは、腕部と、前記腕部に接続する三角錐状のチップと、を有し、
前記腕部の上面は第１の斜面を有し、
前記腕部の下面は第２の斜面を有し、
前記チップの側面は、貴金属でコートされる、
ことを特徴とする走査プローブ顕微鏡。
【請求項２】
請求項１記載の走査プローブ顕微鏡であって、
前記腕部のＳｉ層の厚さは、前記チップに近い程厚くなるか、または一定である、

ことを特徴とする走査プローブ顕微鏡。
【請求項３】
請求項１記載の走査プローブ顕微鏡であって、
前記腕部の前記上面は、貴金属でコートされていない、
ことを特徴とする走査プローブ顕微鏡。
【請求項４】
請求項２記載の走査プローブ顕微鏡であって、
前記第２の斜面は、前記Ｓｉ層の上に貴金属でコートされる、
ことを特徴とする走査プローブ顕微鏡。
【請求項５】
請求項４記載の走査プローブ顕微鏡であって、
前記第２の斜面の貴金属コートの厚さは、前記Ｓｉ層の厚さより薄い、
ことを特徴とする走査プローブ顕微鏡。
【請求項６】
請求項５記載の走査プローブ顕微鏡であって、
前記カンチレバーは、前記走査プローブ顕微鏡の圧電素子アクチュエータと接続する接続部を有する、
ことを特徴とする走査プローブ顕微鏡。
【請求項７】
腕部と、前記腕部に接続する三角錐状のチップと、を有する操作プローブ顕微鏡に用いるカンチレバーであって、
前記腕部の上面は第１の斜面を有し、
前記腕部の下面は第２の斜面を有し、
前記チップの側面は、貴金属でコートされる、
ことを特徴とする走査プローブ顕微鏡用のカンチレバー。
【請求項８】
請求項７記載の走査プローブ顕微鏡用のカンチレバーであって、
前記腕部のＳｉ層の厚さは、前記チップに近い程厚くなるか、または一定である、
ことを特徴とする走査プローブ顕微鏡用のカンチレバー。
【請求項９】
請求項７記載の走査プローブ顕微鏡用のカンチレバーであって、
前記腕部の前記上面は、貴金属でコートされていない、
ことを特徴とする走査プローブ顕微鏡用のカンチレバー。
【請求項１０】
請求項８記載の走査プローブ顕微鏡用のカンチレバーであって、
前記第２の斜面は、貴金属でコートされる、
ことを特徴とする走査プローブ顕微鏡用のカンチレバー。
【請求項１１】
請求項１０記載の走査プローブ顕微鏡用のカンチレバーであって、
前記第２の斜面の貴金属コートの厚さは、前記Ｓｉ層の厚さより薄い、
ことを特徴とする走査プローブ顕微鏡用のカンチレバー。
【請求項１２】
請求項１１記載の走査プローブ顕微鏡用のカンチレバーであって、
前記カンチレバーは、前記走査プローブ顕微鏡の圧電素子アクチュエータと接続する接続部を有する、
ことを特徴とする走査プローブ顕微鏡用のカンチレバー。